

育苗期の害虫に対する各種薬剤の防除効果1

育苗期間中のかんきつは、ミカンハモグリガやアゲハ類などのチョウ目害虫やアブラムシ類など様々な害虫に新梢を加害されるため、害虫種の適用範囲が広い**ネオニコチノイド系薬剤**を主体とした**7~10日間隔の新梢伸長期防除**が一般的である。しかし、近年はジアミド系等、新しい系統の薬剤が開発されていることから、育苗期における新規系統薬剤の防除効果を検討した。

1. ミカンハモグリガ

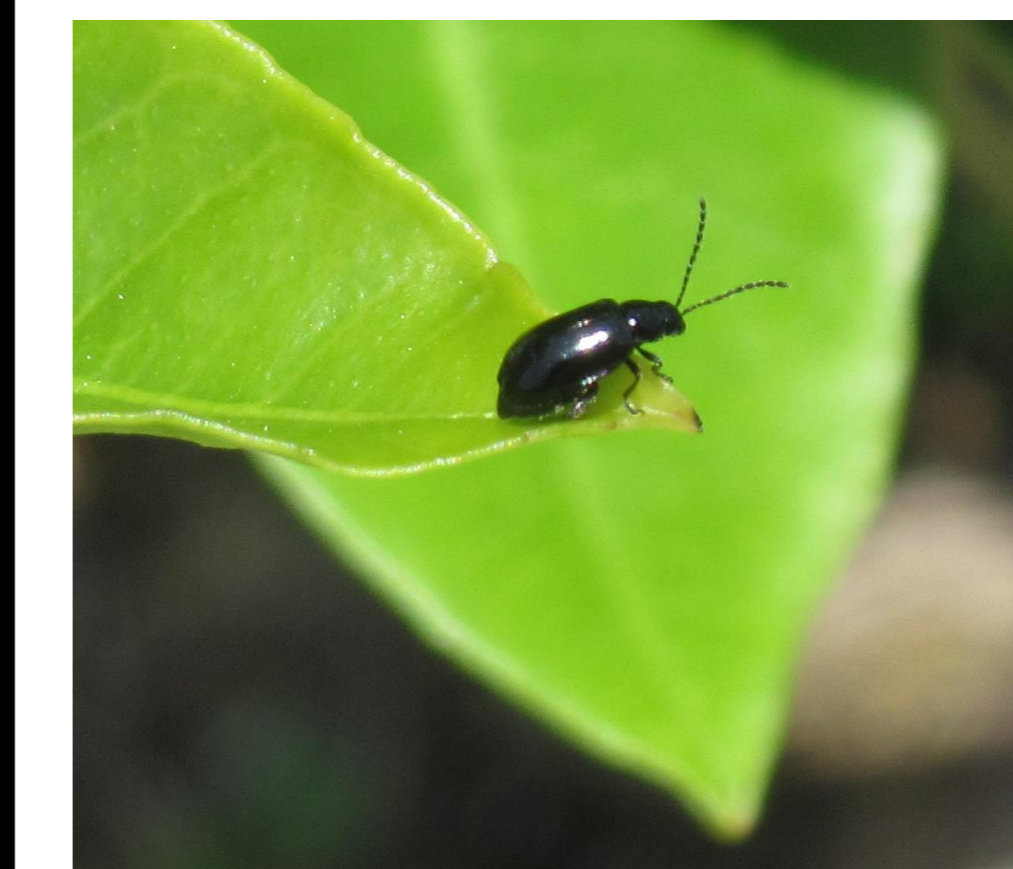
慣行散布試験（7~10日間隔の複数回散布）では、**全ての薬剤で高い防除効果**が得られた。一方、1回散布（残効試験）では多くの薬剤で防除効果が劣り、**処理8日後以降に被害が急増する中で、ジアミド系薬剤は、他系統より残効が長く、1回散布でも高い防除効果を示した。**ただし、ジアミド系薬剤はアブラムシ類に対する効果が低いため、同時防除は期待できない。

慣行散布試験
10日間隔2回散布

残効試験
1回散布

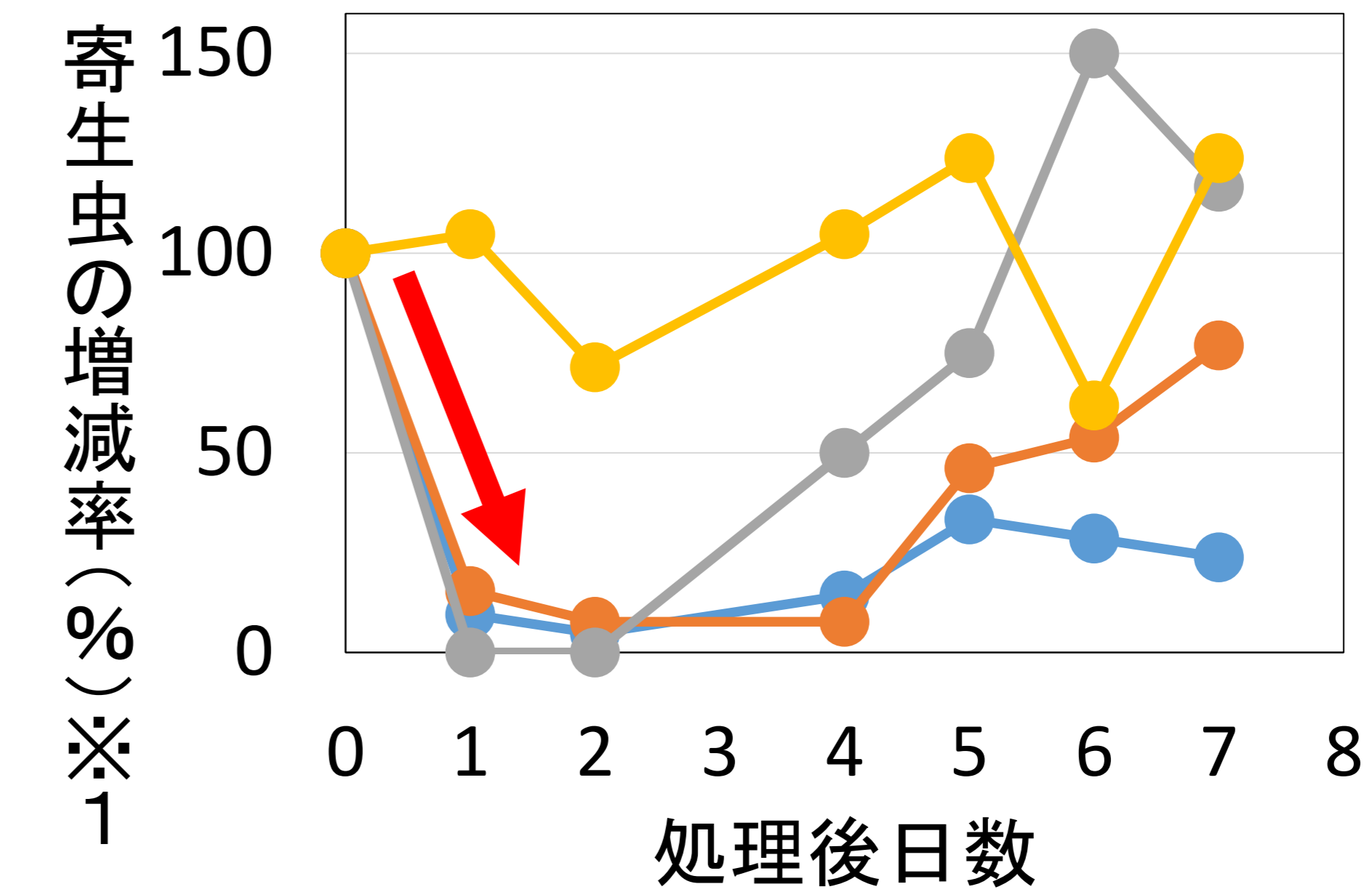


2. クワノミハムシ



登録薬剤が2剤のみで、**効果がある薬剤が少ない**。ジアミド系薬剤は、**未登録**ではあるが、寄生や食害を低減する効果が見られた。

薬剤処理後の寄生虫数の推移



薬剤処理後の食害状況

